内縣各地版

熱河討伐記

弾雨を潜りて

北大營から北票占據まで

郷土兵に従軍して　小原派遣員發

（二信）

二十日北大營を出發した我が郷土兵は午前六時陽寺を出發熱河討伐の第一線に立つたが同隊は日北營子西方に差かゝるや數百の敵兵現はれ後十時朝陽寺を出發熱河討伐の第一線に立つたが同隊は日北營子西方に差かゝるや數百の敵兵現はれ

たが皇軍の鋭め追撃され敵の築き上げし三ケ所の山陣地も何人無く追ひ拂つた後加藤中尉（十一中隊元盛隊）は午三大隊（島村大隊）に前進し光榮ある指揮官（機關銃一ケ中隊）は尚も敵を追撃しつゝ北營子東南方三キロの高地に到り同山を占領した。輜機關銃小隊之を修理中午前八時五十分同所に敵軍追撃砲彈落下

岩手郡玉山村出身水上藤吉二等兵（初年兵）は上腹部砲彈破片創にてわずか五分間にして名譽の戰死（熱河討伐第一線戦者）紫波郡穂田村出身谷村民一上等兵は左上膊及下腿砲彈破片創、下閉伊郡遠野市村手登日飛澤雄一等兵は右工膊及右下腿砲彈破片創、川崎留三二等兵は右工膊及左中指破彈破片創、江刺郡愛宕村二于町出身小隊長高橋鶴美時務曹長は左膝關節部砲彈破片創、和賀郡鬼柳村出身都島長作一等兵は背部及下腿砲彈創を受け水上二等兵は翌朝朝陽寺に送り又谷村、飛澤、川崎の三兵は錦州の衛生班に入院したが

各三週間位にて退院の見込み。又高橋、都島兵はこゝ輜機にて直ちに軍醫の手當にて三四日にして全治の見込みで隊と共に戰線に立つて居る。

×

一方聯隊主力は午前四時半寒下二十度位の寒氣の中を朝陽寺を出發午前八時頃前衛三大隊の鉄砲隊を聞き迅速なる行動を以て大凌河々岸に直ちに進出、敵軍は北營子西北方の高地に約三百この敵を發見之に對し山砲にて砲撃を加へ一方歩兵を以て追撃約四十分にして敵は退却を開始した信聯隊主力は永樂せる輜約六百米の大凌河を前進敵を追撃なし舟近に一泊、廿二日午前七時各隊は宿營地を出發柳大隊第一大隊は北方より聯隊主力は南方より北票に向ひ大凌河の砂地を前進し一方對島中尉の率ある乘馬小隊は午前九時四十分北票の一部占領又宮崎製甲列車は常盤甲列車長外十七名午前八時北票驛を占領し午後一時聯隊主力及び平柳大隊は棚前後して北票全市を占領、軍旗、早川聯隊長先頭にて行進ラッパも勇ましく威風堂々北票市民の歡迎を受けつゝ市街に入減聯隊廣場に全部隊集合早川聯隊長の慶祝で聯高々と勇ましく天皇陛下萬歳を三唱した。時に一時二十五分、各隊はそれ〴〵宿舎に入つた（北票にて）

（寫眞は山又山を前進する我が早川部隊）

救護品配給調

（三月六日午後四時現在）

	釜石方面	宮古方面	盛方面	久慈方面	岩泉方面	計
米	一、三九俵	九、九六	五、九六	一、五九	二、七六	二、七六
白米	一	一	一	一	一	一
栗	一	一	一	一	一	一
稗	一	一	一	一	一	一
蔬菜	九〇〇貫	一、三〇〇貫	一、九〇〇貫	一、三〇〇貫	一、三〇〇貫	一、三〇〇貫
味噌	三、三〇〇樽	四、四〇〇樽	三、八〇〇樽	一、〇〇〇樽	一、〇〇〇樽	一、〇〇〇樽
醤油	一、〇〇〇本	一、〇〇〇本	一、〇〇〇本	一、〇〇〇本	一、〇〇〇本	一、〇〇〇本
漬物	一、〇〇〇樽	一、〇〇〇樽	一、〇〇〇樽	一、〇〇〇樽	一、〇〇〇樽	一、〇〇〇樽
鮭缶詰	三〇〇箱	六〇〇箱	一〇〇箱	一〇〇箱	一〇〇箱	一〇〇箱
砂糖	四〇俵	一〇〇俵	一〇〇俵	一〇〇俵	一〇〇俵	一〇〇俵
キャラメル	一、三〇〇個	一、〇〇〇個	一、〇〇〇個	一、〇〇〇個	一、〇〇〇個	一、〇〇〇個
ビスケット	三貫	一〇貫	一〇貫	一〇貫	一〇貫	一〇貫
ミルク	三個	一〇個	一〇個	一〇個	一〇個	一〇個
毛布	一、九〇〇枚	一、〇〇〇枚	一、〇〇〇枚	一、〇〇〇枚	一、〇〇〇枚	一、〇〇〇枚
外套	三、三四四枚	一、〇〇〇枚	一、〇〇〇枚	一、〇〇〇枚	一、〇〇〇枚	一、〇〇〇枚
衣類	一、一八足	一、〇〇〇足	一、〇〇〇足	一、〇〇〇足	一、〇〇〇足	一、〇〇〇足
靴	一、〇〇〇組	一、〇〇〇組	一、〇〇〇組	一、〇〇〇組	一、〇〇〇組	一、〇〇〇組
軍足	三、三四四枚	一、〇〇〇枚	一、〇〇〇枚	一、〇〇〇枚	一、〇〇〇枚	一、〇〇〇枚
毛布	一、〇〇〇枚	一、〇〇〇枚	一、〇〇〇枚	一、〇〇〇枚	一、〇〇〇枚	一、〇〇〇枚
手袋	一、〇〇〇枚	一、〇〇〇枚	一、〇〇〇枚	一、〇〇〇枚	一、〇〇〇枚	一、〇〇〇枚
提灯	一、〇〇〇寸	一、〇〇〇寸	一、〇〇〇寸	一、〇〇〇寸	一、〇〇〇寸	一、〇〇〇寸
蠟燭	三、三四四箇	一、〇〇〇箇	一、〇〇〇箇	一、〇〇〇箇	一、〇〇〇箇	一、〇〇〇箇
チリ紙	三、三四四箇	一、〇〇〇箇	一、〇〇〇箇	一、〇〇〇箇	一、〇〇〇箇	一、〇〇〇箇
薪	一〇、三一二束	一、〇〇〇束	一、〇〇〇束	一、〇〇〇束	一、〇〇〇束	一、〇〇〇束
木炭	三、三四四俵	一、〇〇〇俵	一、〇〇〇俵	一、〇〇〇俵	一、〇〇〇俵	一、〇〇〇俵
骨箱	八、四四四箱	一、〇〇〇箱	一、〇〇〇箱	一、〇〇〇箱	一、〇〇〇箱	一、〇〇〇箱

焦土に雪

飢えと寒さに泣く人々

悲慘の極釜石地方

（釜石電話）釜石地方は海嘯以來以來皮肉にも殊の外寒氣厳しく六日朝は粉雪さへ降り出して罹災者達は飢渇と寒氣に身も心も消え失せん許りで悲慘の極みを呈してゐる。

救援隊・見舞客

來町した一萬

町出身者も續々歸町して

涙新たなる悲劇

釜石

（釜石電話）郷土釜石町の災害の報に驚いた釜石町出身で各地に移住してゐる人々は續々郷里へ歸してゐるが六日朝現在で歸郷者は約二千名と云はれ罹災者の家族と抱擁して泣き悲しみ各所に悲話を生んでゐる。倍數援隊見舞客等も續々來町しその數六日朝迄に二萬を算し大

（釜石電話）釜石町の災害の報に驚いた釜石町出身で各地に移住してゐる人々は續々郷里へ歸してゐるが六日朝現在で歸郷者は約二千名と云はれ罹災者の家族と抱擁して泣き悲しみ各所に悲話を生んでゐる。倍數援隊見舞客等も續々來町しその數六日朝迄に二萬を算し大

混雑を呈してゐる。

×

（同上釜石小學校では災害以來一週間休校し職員始め上級の生徒等慰撫りで炊き出しに當り又罹災兒童の教科書の蒐集に務める等活躍してゐる。

×

（同上釜石小學校では災害以來一週間休校し職員始め上級の生徒等慰撫りで炊き出しに當り又罹災兒童の教科書の蒐集に務める等活躍してゐる。

×

（同上釜石町鵜住居神社は全壊し跡形もなくなり神官は辛うじて難を免れたが山本神官は全くの裸で焼出されその後度々繰代會を開いて復舊策を協議中であるが差當り六日から各繰代各戸より一名づゝの人夫を出して後仕末に當つてゐる。

×

（同上災害發生以來釜石署員は不眠で活動を續け地方民から感謝されてゐるが五日山形縣警上郡員室消防組頭岸上治同副組長中川兎一郎氏は罹災の慰勞の一部に充てゝ下さいと金一封を贈つた

×

（同上釜石町中川陽兎郎氏に不時着した朝日機は修理の上六日午前十時十五分歸還した

震災◇◇こぼれ話

その夜津波來の急報に接した星宮古署長はスワ一大事とばかりに當直の平賀次席を伴ひ提灯片手に町民護の大任を帯び勢良く濁流に駆けつけたまでは良かつたが濁流の人達から『危ふない逃げなさい！』と注意されて辛くも命拾ひをした。息切つて漸く安全地にまで駆けついた御一行人汗をふき〳〵『ヤアどうも海の保安はチト陸とは勝手が違ふネ』

○

その平賀警部補殿、星署長が罹災地に出張中留守頭として納まつてゐたが次から次へとエライ人が中央からやつて來て應接に遑がない。それに地方の事情に通ぜぬ我儘なお役人が無理ばかり云ふので困らされてゐる。某高官連の如き日程になつてもどうしても自分に軍艦で山田に行きたいから交渉して呉れと駄々をこね始める平賀君やむなくハシケで沖の軍艦まで漕ぎつけ交渉して見た所『罹災民の救護に急行するなら夜中でも發航するがそんな事は能り成らぬ』と艦長から御叱りを受け『全くこんな辛い間に合ない役はない』とし

○

駅では罹災地中小本、田野畑ではハシケがなくて駅舎が出來ないとの急報に接し直ちに宮古署に殺到各地に對し電報を以て至急ハシケを手配すべしと命令を下して來た署員が漁師に取りかゝると『小漁船と違つて電報で曳船せばハシケは粉砕されて仕舞ふ』とすかされ、『デエッ！陸の人の考へる事は海には通用しないや』

○

ひどい役ばかり背負つた宮古署に一つ面喰らつた話――津波の後狀が豫想以上に凄しいと知つた同署では早速線を利かして死体機械書、殺死調書、死体受書、死体受書を作成し『デエッ！陸の人の考へる事は海には通用しないや』

○

東海岸海嘯の惨狀が一層傳へられるや全國よりの見舞電報は文字通り山積し何れも確定より八時間位遅れて着き各町域毎に束ねられてトラックで送り出されてゐるが折角來た電報の内に周章して差出し人の名がなかつたり或は名宛人一家が全滅か子供ばかりか受取人がないと云ふやうなものが可なりあり家が何れも非常時らしい話の種を作つてゐる

救護品配給調

（三月六日午後四時現在）

	釜石方面	宮古方面	盛方面	久慈方面	岩泉方面	計
米	一、三九俵	九、九六	五、九六	一、五九	二、七六	二、七六
白米	一	一	一	一	一	一
栗	一	一	一	一	一	一
稗	一	一	一	一	一	一
蔬菜	九〇〇貫	一、三〇〇貫	一、九〇〇貫	一、三〇〇貫	一、三〇〇貫	一、三〇〇貫
味噌	三、三四四樽	四、四〇〇樽	三、八〇〇樽	一、〇〇〇樽	一、〇〇〇樽	一、〇〇〇樽
醤油	一、〇〇〇本	一、〇〇〇本	一、〇〇〇本	一、〇〇〇本	一、〇〇〇本	一、〇〇〇本
漬物	一、〇〇〇樽	一、〇〇〇樽	一、〇〇〇樽	一、〇〇〇樽	一、〇〇〇樽	一、〇〇〇樽
鮭缶詰	三〇〇箱	六〇〇箱	一〇〇箱	一〇〇箱	一〇〇箱	一〇〇箱
砂糖	四〇俵	一〇〇俵	一〇〇俵	一〇〇俵	一〇〇俵	一〇〇俵
キャラメル	一、三〇〇個	一、〇〇〇個	一、〇〇〇個	一、〇〇〇個	一、〇〇〇個	一、〇〇〇個
ビスケット	三貫	一〇貫	一〇貫	一〇貫	一〇貫	一〇貫
ミルク	三個	一〇個	一〇個	一〇個	一〇個	一〇個
毛布	一、九〇〇枚	一、〇〇〇枚	一、〇〇〇枚	一、〇〇〇枚	一、〇〇〇枚	一、〇〇〇枚
外套	三、三四四枚	一、〇〇〇枚	一、〇〇〇枚	一、〇〇〇枚	一、〇〇〇枚	一、〇〇〇枚
衣類	一、一八足	一、〇〇〇足	一、〇〇〇足	一、〇〇〇足	一、〇〇〇足	一、〇〇〇足
靴	一、〇〇〇組	一、〇〇〇組	一、〇〇〇組	一、〇〇〇組	一、〇〇〇組	一、〇〇〇組
軍足	三、三四四枚	一、〇〇〇枚	一、〇〇〇枚	一、〇〇〇枚	一、〇〇〇枚	一、〇〇〇枚
手袋	一、〇〇〇枚	一、〇〇〇枚	一、〇〇〇枚	一、〇〇〇枚	一、〇〇〇枚	一、〇〇〇枚
提灯	一、〇〇〇寸	一、〇〇〇寸	一、〇〇〇寸	一、〇〇〇寸	一、〇〇〇寸	一、〇〇〇寸
蠟燭	三、三四四箇	一、〇〇〇箇	一、〇〇〇箇	一、〇〇〇箇	一、〇〇〇箇	一、〇〇〇箇
チリ紙	三、三四四箇	一、〇〇〇箇	一、〇〇〇箇	一、〇〇〇箇	一、〇〇〇箇	一、〇〇〇箇
薪	一〇、三一二束	一、〇〇〇束	一、〇〇〇束	一、〇〇〇束	一、〇〇〇束	一、〇〇〇束
木炭	三、三四四俵	一、〇〇〇俵	一、〇〇〇俵	一、〇〇〇俵	一、〇〇〇俵	一、〇〇〇俵
骨箱	八、四四四箱	一、〇〇〇箱	一、〇〇〇箱	一、〇〇〇箱	一、〇〇〇箱	一、〇〇〇箱

郵貯は依然激増

二月中六縣の成績

二月中に於ける東北六縣の郵便貯金は預入口數六十九萬八千四百四十六口、金額一千十四萬五千圓拂戻し口數十九萬六千二百二十三口、金額七百九十四萬五千圓であつて月末現在高は預け人員二百八十二萬九千人、金額二億四千七百九十四萬三千圓となり之を前月末の現在高に比較せば人員に於て一萬五千八百九十五人、金額二百三十九人、金額七萬三千九百六十四圓増となり前月末現在高及び前月末との比較

縣名	現在人員	現在金額	前月末との比較増減△は減 人員	金額
宮城	五三、九五人	二四、八〇、一五圓	二、六人	二、六圓

震災こぼれ話

（宮古發）罹災地に起つたこぼれ話に二三

○

その夜津波來の急報に接した星宮古署長はスワ一大事とばかりに當直の平賀次席を伴ひ提灯片手に町民護の大任を帯び勢良く濁流に駆けつけたまでは良かつたが濁流の人達から『危ふない逃げなさい！』と注意されて辛くも命拾ひをした。息切つて漸く安全地にまで駆けついた御一行人汗をふき〳〵『ヤアどうも海の保安はチト陸とは勝手が違ふネ』

○

その平賀警部補殿、星署長が罹災地に出張中留守頭として納まつてゐたが次から次へとエライ人が中央からやつて來て應接に遑がない。それに地方の事情に通ぜぬ我儘なお役人が無理ばかり云ふので困らされてゐる。某高官連の如き日程になつてもどうしても自分に軍艦で山田に行きたいから交渉して呉れと駄々をこね始める平賀君やむなくハシケで沖の軍艦まで漕ぎつけ交渉して見た所『罹災民の救護に急行するなら夜中でも發航するがそんな事は能り成らぬ』と艦長から御叱りを受け『全くこんな辛い間に合ない役はない』とし

○

駅では罹災地中小本、田野畑ではハシケがなくて駅舎が出來ないとの急報に接し直ちに宮古署に殺到各地に對し電報を以て至急ハシケを手配すべしと命令を下して來た署員が漁師に取りかゝると『小漁船と違つて電報で曳船せばハシケは粉砕されて仕舞ふ』とすかされ、『デエッ！陸の人の考へる事は海には通用しないや』

○

ひどい役ばかり背負つた宮古署に一つ面喰らつた話――津波の後狀が豫想以上に凄しいと知つた同署では早速線を利かして死体機械書、殺死調書、死体受書、死体受書を作成し『デエッ！陸の人の考へる事は海には通用しないや』

○

東海岸海嘯の惨狀が一層傳へられるや全國よりの見舞電報は文字通り山積し何れも確定より八時間位遅れて着き各町域毎に束ねられてトラックで送り出されてゐるが折角來た電報の内に周章して差出し人の名がなかつたり或は名宛人一家が全滅か子供ばかりか受取人がないと云ふやうなものが可なりあり家が何れも非常時らしい話の種を作つてゐる

大津波の惨禍より二陸を救へ

大方の同情に待つ

今曩宮古沖合大地震に續いて本縣東海岸一帯に海嘯起り殊に釜石では地震と同時に火事起り水火の災一時に襲來して同町一帯は焼け阿鼻叫喚の巷と化し全町全滅に瀕して居る状況は事先して起ち之等被害者に對し義捐金品を募つて贈ることになつた大方の賛同を待つ

本社及び支局でお取扱ひ致します

義捐金募集

岩手日報社

種別	受口數	金額
現金	三、六七〇	一、八〇一、六七二
振替	九二	九、〇二一
縣税	三、八七七	三、〇八一、三九五
其他	九二	九、〇二一
計	三、八七七	三、〇八一、三九五

郵便局	受口數	金額
盛	一、三三一	一、七二一、三五五
大船渡	一、二三二	一、三二六、三五五
釜石	一、三三一	一、三二六、三五五
宮古	一、三三一	一、三二六、三五五
久慈	一、三三一	一、三二六、三五五
山形	一、三三一	一、三二六、三五五
秋田	一、三三一	一、三二六、三五五
福島	一、三三一	一、三二六、三五五
岩手	一、三三一	一、三二六、三五五
青森	一、三三一	一、三二六、三五五
計	一、三三一	一、三二六、三五五

振替貯金

次に當月中に於ける振替貯金取扱ひ高は受拂ひ總口數五萬七千三百口金額六百十七萬二千八百圓の加入者現在數は八千七百七十二口、口座現在高は二百三十三萬八千八百二十八圓にして受拂ひ高を總數別に示せば次の通りである

拂戻口數	金額
一、七三一	一、七二一、三五五
八、九二二	八、九二二、三五五
一、三三一	一、三二六、三五五
一、七一〇	一、七一〇、〇〇六
一、三三一	一、三二六、八七
一、九二一	一、九二一、三五五
一、三三一	一、三二六、三五五
一、三三一	一、三二六、三五五
一、三三一	一、三二六